

例会 NO 117

No 3- 32 1993. 3. 10 発行



1992~1993RIテーマ
まことの幸福は
人助けから

RI会長 クリア・タカターマン

Tokyo
Green
Rotary Club

Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1992~1993年度クラブ目標 “地域を見つめよう……地域にロータリーの輪を……”

第117回例会報告 (3/3)

司会 SAA 吉沢 洋景

☆点 鐘 会長 赤尾 恭雄

☆国歌 斉唱

☆ロータリーソング 「日も風も星も」

ソングリーダー SAA 飯島 裕美

☆お客様紹介 会長 赤尾 恭雄

布田 正昭様 (東京多摩RC)

細野 重陽様 (東京町田RC)

五十嵐耕司様 (東京稲城RC)

竹村 寛様 (東京稲城RC)

ニコル・ウォルシュ様 (来日交換学生)

☆会務報告 会長 赤尾 恭雄

* 2/24 (水) 例会後、第13回理事会 (定例) を開催、下記のとおり審議決定した。

・プログラム委員会の追加予算措置。既に確定している卓話を含めて総額20万円を限度とする特別事業費予算の充当を考慮する。

・地区世界社会奉仕活動 (東南アジア聴覚疾患児診療プロジェクト) に対する賛助金拠出。世界社会奉仕委員会の活動計画どおり、同委員会の募金活動として、3月末までに実施し拠出する。

・本年度親睦旅行の基本方針。当日の例会は移動例会とし、目的地を比較的近距离に設定して全員登録参加を原則とする。

・稲城RC創立20周年記念式典の全員登録、

例会振替。5/13 (木) 開催の稲城RC創立20周年記念式典は全員登録とし、前日5/12 (水) の当クラブ例会はこれに振替える。

* 2/27 (土) 社会福祉法人、社会福祉協議会主催の「平成4年度福祉大会」に招待され、当クラブは「寄付功労者」として表彰された。

☆幹事報告 幹事 遠藤 二郎

* 当クラブ例会及び例会会場臨時変更

3/31 (水) PM6:30~9:00

花見例会及び懇親会 (家族同伴)

於：東京国際カントリークラブ

4/21 (水) PM0:30~1:30

於：多摩そごう6F

於：ホテルオークラ バックルーム

4/28 (水) PM6:30~7:30

於：ホテルオークラ バックルーム

5/12 (水) 5月13日 (木) 東京稲城RC

創立20周年記念式典に振替

* 東京狛江多摩川RC例会変更

3/10 (水) 地区大会振替

4/28 (水) 休会

* 東京港南RC創立20周年記念式典、東京マリンRC認証状伝達式ジョイント、セシモニー

4/21 (水) 登録 14:30~

式典、祝宴 15:00~

会場：ホテルパシフィック東京

「万葉の間」

*ロータリアン必携の申し込みがありましたら事務局の方まで申し出て下さい。

東京稲城RC創立20周年
記念式典のご案内

稲城RC 会長 五十嵐耕司様
幹事 竹村 寛様



私どものRCでは、今年度創立20周年を迎え、地元の「よみうりランド」において“水と緑と空気、稲城の自然を大切に”のテーマのもとで日本で唯一の水中パレエをご観覧頂き、併せて記念式典を挙行し、祝宴は5月の緑したたる聖地公園において、野趣を満喫して頂き乍ら懇親を賜りますよう計画致しました。皆様方のご来場をお待ちしております。

☆委員会報告

★出席委員会 出席委員長 宮本 誠
〔出席報告〕

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	46	38	0	8	82.61%
前訂正	46	41	2	3	93.48%

〔欠席届出者〕

萩生田茂夫、風間 茂徳、小坂 一郎
隅 耕造、若林 滋和

〔欠席者〕高野 範城、高村 弘、横倉 恒雄

★親睦委員会 親睦委員 新海源四郎

ニコニコBOX

五十嵐耕司様、竹村 寛様（稲城RC）

20周年記念式典のご案内に伺いました。

細野 重陽様（町田RC）

ニッキーがお招きにあずかり誠に有難うございます。よろしくお願いします。

遠藤 二郎 稲城RC、五十嵐様、竹村様、ようこそ。創立20周年記念式典の御成功を祈ります。

海野 栄一 先週、家内の誕生日祝をいただきましたので。

伊神 稔 やっと風邪が治りました。お客様ようこそ。

藤本 吉文 お客様ようこそ。

佐伯 和廣 大変忙しいですネ。

赤尾 恭雄 稲城RC五十嵐会長、竹村幹事、創立20周年式典のご成功を祈ります。布田様、細野様、ご苦労様です。

宮本 誠 1月、2月の平均出席率が共に94.02%となりました。今日は白酒出ないのかなあ？

吉沢 洋景 暖冬も、はや3月、春ですね。

北村 幸彦 先週は家内の誕生日祝をいただいたので。

森田 舞子 今日はおひな様です。子供の頃が思い出されます。

杉田 誠 ひな祭りですね。

新海源四郎 ひな祭りですね。

猪股 末男 今日は、おひなさまですね。

以上合計 37,000円

★世界社会奉仕委員会

委員長 菊池 敏

世界社会奉仕は委員会にて継続しています
東南アジア聴覚疾患児救済基金の申し込みを今月中と致しますので事務局までカ例会後ご協力をお願い致します。
10千円です。



《3分間ミニ情報》

「研究グループ交換」 内藤 実

ロータリー財団の事業の1つ。財団は1916～1917年度、アーチ・クランクR1会長の発案で創立。人道、教育、その他の分野で、人類に貢献する基金が必要であることを訴え、1917年に認められた。財団創設以来の寄付額累計は約6億ドルに達し、内訳は、ポリオ関係、奨学金、研究グループ交換（GSE）及

同補助金、ロータリー平和プログラムに使われる。研究グループ交換は、Group-Study-Exchange (略称GSE) と言われ、財団の国際交流プログラムである。具体的には、



①国を異にする2つの地区がペアを組んで行う。②ロータリアン以外で、事業または専門職に携わる、年齢25～35才の人物4、5人を選び、ロータリアン1人を加えて1チームを編成し、相手地区に派遣する。③チームメンバーが5人の場合、ロータリアン1人、4人の場合はロータリアン1人の他配偶者が同行できる。④チームメンバー男性のみ、女性のみ、あるいは男女混成のいずれも可。⑤派遣もしくは受入れ期間は、4～6週間。⑥費用は、往復旅費のみ財団が負担。訪問チーム滞在中の食費、旅費、宿泊費は受入れ地区が負担。

【卓話】 (2/24講演) 『地球環境と温暖化』

東北大学教授 中沢 高清先生

現在マスコミ等でも大変さわがれておりますが、地球規模の環境破壊が非常に大きな問題になっています。例えばヨーロッパや中国、北米などで酸性雨が非常にひどい状態になっています。そして低緯度の方では、アマゾンとか、東南アジアあるいはアフリカの方で熱帯雨林の伐採が非常に勢いで進んで、砂漠の周辺をさらに砂漠化させて行くという事やっております。さらに我々がフロンを使い、それが成層圏に上ってオゾン層を破壊しており、オゾン層を破壊すると人間に限らず生物は一切生きる事は出来ません。



このような問題が現実起こっています。さらに今日の主題であります、地球の温暖化、温室効果が強まって行くという大きな問題が

あります。温室効果問題とオゾン層の破壊は地球全体に及びますので、大変影響の大きい問題です。特に温室効果問題は、スケールがグローバルである事、対策が非常に取りにくい。これは我々が生活していること自体が原因になっているのですが……。又、地球の温暖化は時間的にいがいと早く来ます(数10年先には来る)。普通気候が変動しますと、自然はそれを引き戻す力がたいに有るものです。ところが今我々が引き起こそうとしている地球温暖化は元引き戻す力があまりなく、温暖化が始まるとますますそれが強まるという作用しか今の我々は知りえない訳です。

私は15年程前からこの研究を始めましたが、当時は温室効果とか、温暖化といっても誰も分からず、この言葉すら理解をなかなかしてもらえず苦労しました。

温室効果とは何かというと、意外と難しいものです。簡単にこの効果についてお話しします。今、地球に大気が無かったら何度になるかと言いますと、太陽から光が来て地面に当たって約3割が反射して宇宙に帰って行きます。7割のもので地面を暖めて、暖めたものからは必ず赤外線が出ます。それが宇宙に帰って行きます。もし大気が無ければ地球の表面の温度は-18℃になり、とても人間が暮らせる状態では無い訳です。ところが実際は大気があり、中には水蒸気や二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、オゾン、フロンなどが含まれています。この様な気体は太陽からの光に対しては、ほとんど透明でスッと通します。そして3割は宇宙に帰り7割で地球を暖めます。そしてそこからは赤外線が出ますが、この様な気体は赤外線を強く吸収する性質があり、吸収した大気はそれなりの温度になって、赤外線を宇宙と地表面に返す訳です。この様な事をくり返し地表面が受け取る赤外線の量が増し、大気の有無による差は33℃も有り、地球の地表面の平均温度が15℃となる訳です。

何故温室効果と云うかですが、この大気の層が温室のガラスの役割を果している為、日本語で「温室効果」英語でも「Green house」と言っております。当然中に有る気体の量が

増えれば入って来る赤外線が増えるのでこの15℃が16℃17℃となって行きます。この様に我々が快適に暮らせる為の気体は沢山有るかと言うと、あまり有りません。例えば地球の大気を8000mとしますと、二酸化炭素は2.8mぐらい、メタンは1.4cm、オゾン3mm、亜酸化窒素、これは手術の時に使う笑気ガスと言うものですが、これは2.5mm程、フロンは3.4μですから、1mmの1000分の3.4しかなく、ほとんど無いに等しい訳です。ところがこれらが非常に悪さをしており、このまま増え続けると、地表面の温度がどんどん上昇して行く訳です。二酸化炭素の量は、工業化以前、イギリスの産業革命以前は280PPMでしたが、産業革命以後人間の活動が活発になると共に増え続け現在地球全体の平均は356PPMで、この200年の間に80PPMも増えたこととなります。この200年前の空気の状態をどうして計るかといいますと、昔の空気が、グリーンランドとか、南極の氷の中に入っておりますので、これを計る訳です。次にメタンですが、これも250年程前から急に増え倍ぐらいになっています。その他亜酸化窒素等もほぼ250年前からじわじわ増え、1960年ごろからあっと言う間に増えています。

1つ例外があり、フロンは人間が造り出した物で、人工物です。これがオゾン層を破壊するのです。フロンは人工物ですので原因が分かりますが、他の物が何故増えているかについては、実は良く分かっていません。

このままで行くと、地球の気温は温室効果気体が増え続け、必ず気温は上昇し、100年後には3℃～6℃上り、かなりの温暖化が進みます。そうすると海水が膨張したり、氷河が解けること等が考えられます。そして100年後には70cm程海面が上がると考えられています。この大きな原因は、大気が温まる為それに接している海面も暖まり、熱膨張により水面が上がる訳です。70cm上がるという事

は、非常に困った事として、工業先進国の大半は海面すれすれの所に作られているからです。もし南極の氷が解けたらどれだけ海面が上がるかですが、約78m程ですが、この100年程は心配は有りません。

この温暖化の対策ですが、簡単にいうと、発生源を抑制する事です。次には出たものを何とか早くつぶしてしまう事、もう一つは、どうせだめだから変化した環境に我々が対応すれば良いという考え方もあります。例えば、建設省では実際にどこにどの様な護岸工事をすれば良いかというスタディーを行っております。多くの国でも同じ事をやっています。これは最終的な事としまして、この発生を抑制する、消滅を促進させるという事は現在一生懸命やっておりますが、一番良い方法は人口を抑制する事です。人口は現在54～55億で、1年に1億つつ増えているのですから、当然人口が増えればエネルギーの使用とか森林破壊がどんどん起こる訳です。この意味で人口増加の抑制が一番効く訳ですが、色々な事から、そう簡単に出来ないという問題が有ります。

今最も現実的にやれる事は、省エネです。特に日本は省エネがとて進んでおり、大変な優等国です。世界の二酸化炭素の放出量はどこが多いかと云うと、米国と中国と全体の半分を放出しております。日本とドイツは非常な優等国でG N Pを大変稼ぐ割には4.8%で、ほとんど二酸化炭素を放出せずに行き詰っている国です。ですから一つの生きる道としては、この様な省エネ技術を遅れた国に供与するとか、指導するのはどうしても必要だと思えます。

そして再生可能なエネルギー、例えば、バイオマスのエネルギーだとか、水力、風力、地熱などを使って出来るだけ温室効果気体を出さない様にして、次の世代へ繋げなければなりません。



東京多摩グリーンロータリークラブ

会長：赤尾恭雄 副委員長：津守弘範・委員：北村幸彦
幹事：遠藤二郎 杉田 誠・佐伯和廣・隅 耕造
会報委員長：奥田文夫 小島周二郎

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤ/バンケットルーム

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30